

サークル紹介

百人一首愛好会

バシツときめてます



文 かね とし ひで あき
写真 兼 利 英 昭
理学部一年生

こんにちは、百人一首愛好会です。百人一首かるたの遊びには、坊主めくり、競技かるたがあり、どれもやみつきな楽しさです。

競技かるたが最もメジャーとなっておりますが、私たちのサークルでは、もつと幅広く楽しもうというのを基本にしています。

サークル内には、ものすごく上手な人からまだまだ未熟な人もいますが、みんな楽しくやっています。

活動日は毎週火曜日で、午後五時から学生会館和室で活動しています。和室での練習は、夏は涼しく冬は暖かくてものすごく快適です。

百人一首は、教養としても一つ上に行くものだと思います。

百人一首愛好会は、三十一文字に織り込まれたかるたの世界を味わえるサークルです。

アーチェリー部

目標 五大学競技大会優勝



文 しば みつ や
写真 柴 満 也
工学部三年生

皆さんこんにちは。広島大学体育会アーチェリー部です。

アーチェリーってたまに聞くけどどんなスポーツ、と思われる方へ。アーチェリーは「弓を引く」スポーツです。和弓と形は違えど「弓を引き矢を射る」ことは一緒です。そして、アーチェリーで一番楽しいのは、どれだけ多くの矢が真ん中に当たるかということです。一本でも多くの矢を命中させようと、我がアーチェリー部は日々練習に励んでいます。

アーチェリー部の部員は現在三十余名。そのうちの半分近くが一年生なので、練習中射場には若さがあふれ返って(?)います。そして、部員はみんな大変おもしろい人ばかりでマイペースで練習しています。

今は、秋、初冬に向けて点数、技術の向上に部員一人ひとりが打ち込んでいます。目標は、五大学競技大会で優勝することです。

こんな私たちですが、これからも頑張っていきたいと思えます。

コラム

アジアに見る「地方」の覚悟



去る十一月十五日、アジア政経学会西日本本部研究会が大阪市立大学文化交流センター(大阪市北区)を会場に開催された。「経済自由化」が進む最近のアジア経済の動向を、「地方経済」への影響という比較的新しい視点から捉え直す。主宰者の意図のもと、インド・タイを事例とする二報告を軸に活発な論議が展開されたが、なかでもタイ報告には深く考えさせられた。

周知のとおり、同国の経済発展は、バンコク周辺地域にほぼ集中的な現象であり、一方で北部及び東北部地域は、内陸部・山間地帯に位置するがゆえに、貧困の代名詞とされてきた。前者を事実上支えたのは「華人財閥」(広東省潮州出身の移民中国人及びその後世代による)だが、後者の環境に甘んじてきた住民の多くも、また中国(雲南・チベット等中国西南部)からの移住者なのである(『亜洲週刊』、本年第四十五期等を参照)。

ただ「経済自由化」は、その貧困地域にも転機をもたらしつつあるのだという。北部のチェンマイ、東部のコラートやコーン・ケーンで認められる、地域に根ざした起業(地方銀行設立等)への模索がそれだという。では彼らが、タイの企業家にとって花形部門とも言うべき製造業・電子産業(とくに後者は同国の輸出産品第一位)を選らず、あえて独自の路線を歩まんとする理由とは何か。それは、「臨海」・バンコク経済に対する「内陸」の「優位性」が、中央への模倣・追従によつては見出しえない、との判断からに他ならない。

思えば、事情は今日の広島大学とて同じである。「就職問題」にしてしかりであり、いかに国立大学とは言え、一つの岐路に立たされていることは事実であろう。「地方」に位置するがゆえに、本学もまた、独自の路を歩むべきときが来ているとの感を禁じ得なかった。